編集後記

AA研関係者の皆さん、本年7月25日の第14回通常総会で中野洋一代表理事と共に、新しく編集長になった重田康博(宇都宮大学)です。どうぞよろしくお願いします。

今年からコロナ感染の影響が世界で拡大し、日本でもコロナ感染者が毎日増加しています。日本の大学もコロナ禍で学生の入構が制限されたり、オンライン授業になったり、大きな影響を受けています。私の宇都宮大学でも前期は全てオンライン授業になり、後期も一部を除きオンライン授業で行われることが予定されています。今コロナ・パンデミック時代の大学の教育のあり方や大学教員の姿勢も問われています。現段階では世界のコロナ感染は、いつ収束するのか、いつまで続くのかわかりません。

この様な混沌した状況下で、私たちはどのようなコロナ・パンデミック後の社会や未来を描けばいいのでしょうか？本号では、「コロナ・パンデミック時代のグローバルサウス」を特集し、二つの論文、論潮と時評を掲載させていただきました。

最初の岡野内論文は、国連のSDGs決議文書を基に『アジェンダ2030』における地球防衛戦争の論理を議論しているユニークな論文です。コロナ・パンデミック下でのSDGsをめぐる対立は地球防衛か宇宙開発の協議を活発化させ、宇宙企業集団とエコ・ヒューマニストの地球防衛戦争の仮説を展開しています。岡野内理事は、SDGsの国連が歴史的不正義と多国籍企業との対決姿勢を改めていることを指摘しています。今は国連では、政府、企業、研究者、NGOも参加しグローバル・コンパクトや人権とビジネスの枠の中で、人権問題や労働問題などを議論していますが、今後国連は世界を支配しつつあるGAFAやAIについてどのように扱っていくのか、その時にSDGs理念やゴールが果たす役割を考えていく必要があります。

一方鈴木論文は、＜コロナ禍＞後のグローバル化の第一・第二ステージにおける世界秩序の変容について、米中対立を事例に論じている力作です。鈴木理事は、グローバル･ガバナンスの欠如、米国の指導力の低下、中国のウィルス対処の成功とその影響力の拡大が、米中関係の危機を招き、今回のパンデミックが中国の＜デジタル・シルクロード＞を加速させ、「監視国家」中国の覇権を米国が懸念していること紹介しています。＜コロナ禍＞後の世界において、米国を中心とした資本主義のシステムによって構築された市場、自由、市民社会がどのように変化するのか、中国の新しいシステムによって世界が統制されてしまう方向になるのか、我々は目が離せません。

その他、コロナ・パンデミックに揺れるラテンアメリカの国々による論潮(後藤理事)、ブラジルの事例を時評(小池洋一氏)として掲載することができました。次号でも、引き続きコロナ・パンデミックに関する特集をしますので、ご期待ください。

(2020/ 9 /27　重田康博)

アジア・アフリカ研究

2020年 第60巻 第3号（通巻437号）

2020年 7 月25日発行　機関購読料：年間15,000円

編集人　重田康博

発行人　中野洋一

発行所　特定非営利活動法人
アジア・アフリカ研究所
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-17-10
Tel&Fax: 03（5972）4740
E-mail:aaken@bz01.plala.or.jp
URL:http://www.aaij.or.jp/

印刷所　三和印刷㈱
長野県長野市川中島町1822－1

本誌上で各論考の著者がその責任において述べた意見は、特定非営利活動法人（NPO法人）アジア・アフリカ研究所としての見解を表わすものではありません。

The articles in *Quarterly Bulletin of Third World Studies* do not represent the views of The NPO Corporation Afro-Asian Institute of Japan（AAIJ）. Responsibility for opinions expressed in them rests with their authors.